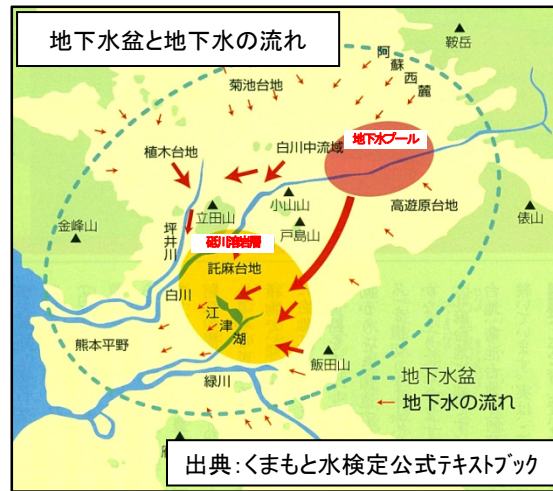


地下水盆の概説：熊本地域

熊本地域の地下水とは？

阿蘇山地をはじめ、菊池台地、植木台地、高遊原台地などでしみ込んだ雨水は、白川中流域の「ザル田」（水を非常に通しやすい水田）を通じて、深い地層の地下水になる。この周辺では地下水盆の底が平らであることから、地下水が溜まりやすくなっており、大きな地下水タンクのような形状になっている。これを熊本地域では「地下水プール」と呼んでいる。

「地下水プール」を経た地下水は小山山や戸島山を回りこみ、「砥川溶岩層」に入る。「砥川溶岩層」は水を非常に通しやすい地層であり、ここに多くの地下水が溜まる。熊本市の水道水源の約7割はこの「砥川溶岩層」から取水しており、江津湖もここからの湧水と考えられている。



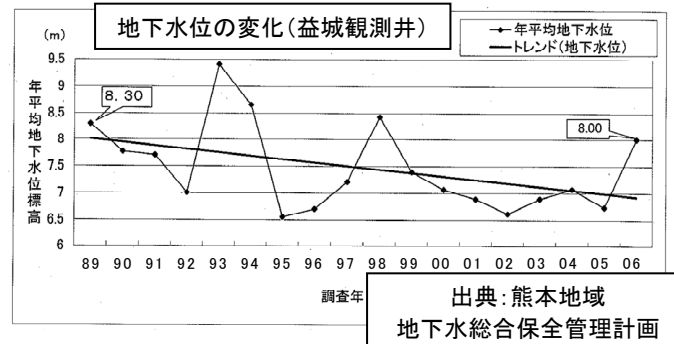
地下水の現状

地下水依存率：熊本地域では生活用水の約全量を地下水に頼っている。

地下水採取量：農業用水の表流水への転換や工業用水の循環利用等により減少傾向を示す（7ページ図面2参照）。

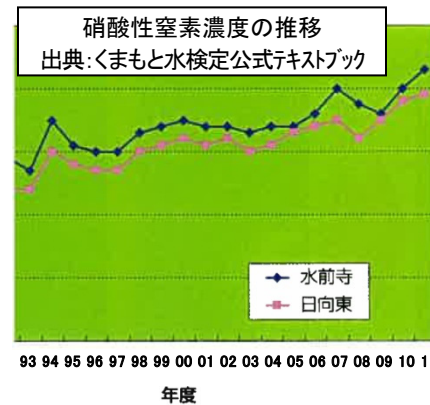
地下水位：熊本県管轄の14観測井のうち、12観測井で低下傾向を示す（上図）。

地下水質：全体としては概ね良好だが、農地の肥料や家畜排泄物、生活排水に含まれる窒素分などを起源とする硝酸性窒素の濃度が上昇傾向を示す地域がある（右図）。



昨今の課題

上述した地下水量の減少（地下水位の低下）や地下水質の悪化などの課題のほか、「①都市化による雨水浸透量の減少」、「②米の生産調整による田から畑への転換に伴う浸透量減少（特に白川中流域）」、「③ライフスタイルの変化に伴う水使用量の増加」などが挙げられる。



地下水保全への取り組み

地下水の現状や昨今の課題等を踏まえ、熊本地域では以下に示す対策を実施している。

- ◆地下水量の保全・・・白川中流域における水田涵養、水源涵養林整備、ビニールハウス雨水浸透施設、雨水浸透ますの設置、透水性舗装の整備、雨水貯留タンクの設置、節水市民運動
- ◆地下水質の保全・・・地下水質の監視、汚染地下水の浄化、硝酸性窒素対策、土壌汚染対策
- ◆地下水位の監視・・・地下水位の観測、地下水採取量調査、地盤沈下の観測
- ◆その他・・・学校教育及び生涯教育の実施、啓発パンフレット作成、広域連携

注意！！ 本資料の作成にあたっては、専門家の助言をうけておりますが、利活用にあたっては、専門家の監修を受けるようにして下さい。

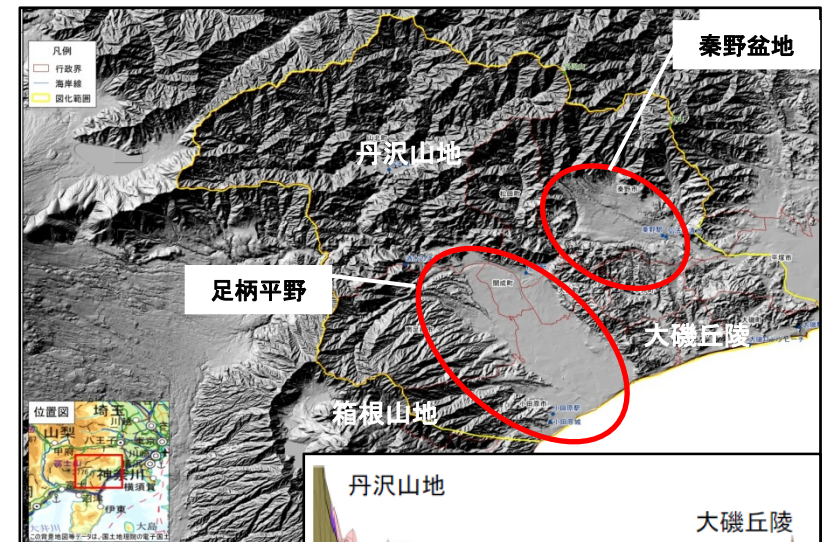
地下水盆の概説：神奈川県西部地域

神奈川県西部地域の地下水とは？

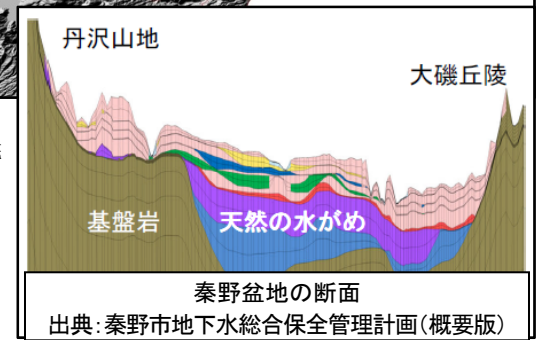
本書でいう神奈川県西部地域とは、神奈川県中郡大磯町～秦野市から西側の神奈川県域を指す。当地域を地下水の観点から大きく分けると、秦野盆地及び足柄平野と丹沢や箱根など周辺の山地と考えることができる（右図）。

秦野盆地では丹沢山地と大磯丘陵に囲まれ、天然の水がめ（地下水盆）が形成されている（右下図）。

足柄平野は酒匂川の扇状地を中心に発達した平野型の地下水盆である。



「この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用した。（承認番号 平 27情使、第 586号）」



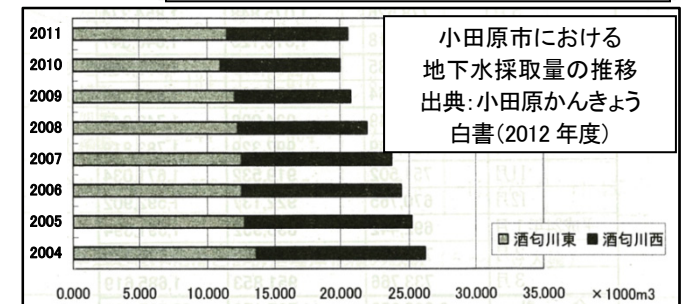
地下水の現状

地下水依存率：秦野市では生活用水の75%を、足柄上地区では約66%を地下水に依存している。

地下水採取量：秦野平野、足柄平野ともに近年は減少傾向を示す（右図）。

地下水位：秦野平野及び足柄平野では、都市化の進展に伴い1960年代に地下水位が低下する傾向が続いたが、近年は安定している（右下図）。

地下水質：秦野市では名水百選の「弘法の清水」が1988年に有機塩素系化学物質に汚染されたが、現在は収められている。一方、近年は神奈川県西部地域全体で硝酸性窒素濃度の高い箇所がみられる。



昨今の課題

秦野盆地及び足柄平野では、硝酸性窒素濃度の高い箇所がみられるなど地下水質の保全が課題となっている。また、森林荒廃や都市化に伴う地下水涵養量の減少は地下水量の保全を行う上で重要な課題となりつつある。

地下水保全への取り組み

地下水の現状や昨今の課題等を踏まえ、神奈川県西部地域では以下に示す対策を実施している。

- ◆地下水量の保全・・・水田涵養、雨水浸透施設の設置、透水性舗装の整備、地下水注入井の設置、水源林等の保全・再生
- ◆地下水質の保全・・・人工透析的浄化事業の実施、深層地下水の浄化、除草剤や家畜排泄物の適正管理等
- ◆その他・・・地下水ワークショップの開催、温泉資源保護、節水運動や水環境教育の推進等

